

# 議会だより **せら**



## ■今号の主な記事

- 平成25年度 決算を認定 .....2~3
- 決算に反対・賛成 .....4
- 視察研修報告 .....5
- 報告します 委員会は今 .....6~7
- 請願・陳情 .....8
- 提出議案等の採決結果 .....9
- ズバリ町政の課題13議員29問を質す...10~23
- 元気な人紹介 .....24

No.39

平成26年10月15日発行

メールアドレス [gikai@town.sera.hiroshima.jp](mailto:gikai@town.sera.hiroshima.jp)

発行 / 広島県世羅町議会

編集 / 議会広報広聴調査特別委員会



# 決算を認定

一般会計は、3億9千万円の黒字となったが、依然として、自主財源比率は23%であり、歳入に占める約8割が依存財源となっている。

## 決算の概要

安心して住み続けられる

健康・福祉のまちづくり

安心して暮らすことができる地域社会の形成を目的とした「災害時要援護者避難支援制度」の普及に努め、地域の見守り活動を支援した。また、不妊治療費助成事業の推進や妊婦歯科健康診査を導入し、妊娠早期から母子の健康増進を図った。

産業が元気なまちづくり

中山間地域等直接支払交付金制度により102集落、20個別協定に対し、農業生産の維持活動や農地が有する公益的機能の維持活動を図る取り組みを支援した。また、尾道松江線の開通を控え広域連携による観光促進事業やインフォメーションセンター（道の駅）の平成26年度末完成を目指して用地の取得をした。

豊かな心を育む

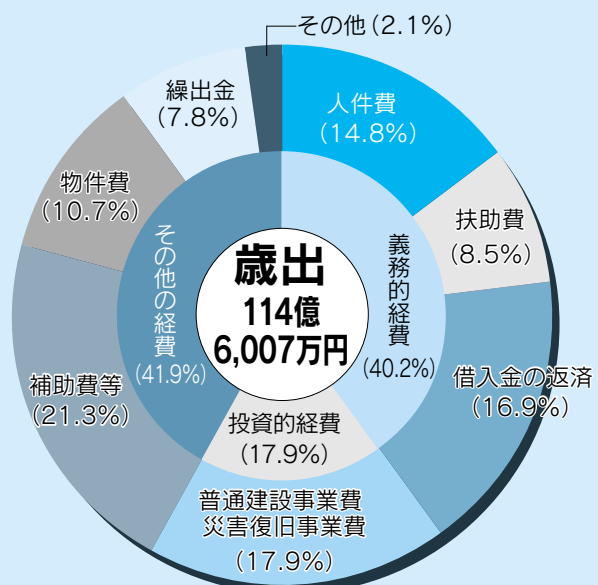
教育・文化のまちづくり

昨年制定された「せら教育の日」11月1日に「輝く学校文化発表会」を開催し、小中学生による特色ある学校文化の交流などができた。また、男女共同参画の推進のため、世羅町はんぶんこプラン推進会議と連携し、研修会や広報紙での啓発活動を実施した。

歳出決算額			
人件費	16億9,051万円		
扶助費	9億7,566万円		
借入金返済	19億3,879万円		
普通建設事業費・災害復旧事業費	20億4,624万円		
補助費等	24億4,593万円		
物件費	12億2,820万円		
繰出金	8億9,542万円		
その他	2億3,932万円		
合計	114億6,007万円		

※その他の内訳	維持補修費：1億6,680万円
	積立金：6,252万円
	投資及び出資金・貸付金：1,000万円



○人件費：議員報酬、職員給与など ○扶助費：生活保護費や医療給付費  
 ○普通建設事業費：道路や公共施設整備などの経費 ○補助金等：各種団体への補助金、公営企業への繰出金  
 ○物件費：光熱費、委託料、賃金など ○繰出金：特別会計等への繰出し ○維持補修費、積立金外：修繕費、積立金など

# 平成25年度

## 4つの柱を中心に審査

快適で安全なまちづくり

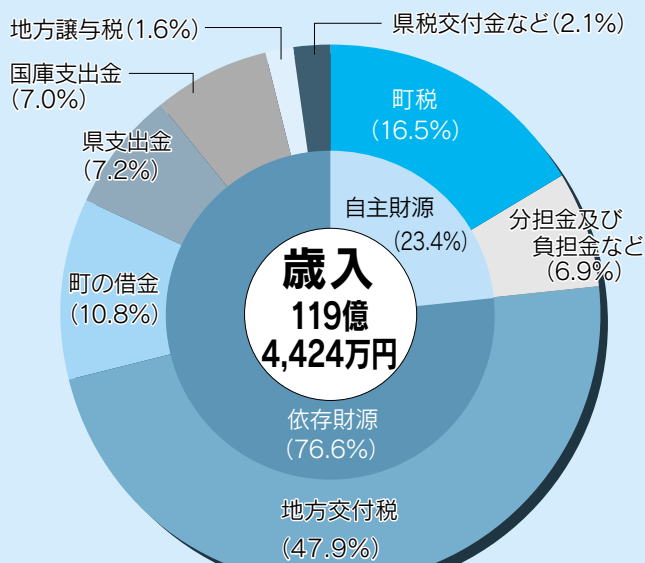
充実した番組を提供するため、自主放送の取材・編集・送出等の業務を三原テレビ放送㈱へ業務委託し、取材体制の強化を図った。また、生活環境の向上を図るため、浄化槽設置整備事業に82基分の助成をし、合併浄化槽の適正な維持管理の促進などのため、維持管理費用の一部助成事業として1495件の助成を図った。

### 監査意見書

一般会計・特別会計管理者及び公営企業出納員から町長への決算書の提出は、法定期間内に行われ、決算審査は、一般会計等は9日間、公営企業は4日間にわたり実施し、いずれも正確と認める。

一般会計の単年度収支額へ積立金、繰り上げ償還金を加え、積立金取崩額を減じた実質単年度収支額は1億9985万円の黒字であり、引き続き健全な財政の運営に努められたい。実質公債費比率は、12・2%で前年度から2ポイント下がり、財政の健全化が図られている。

町税などの収納未済額は、前年度と比較するとわずかに減少したものの、中には慢性的な滞納や完納までに相当に年数を要するものもある。負担の公平性のためにも未収入金の徴収には、全町的な取り組みが必要である。



歳入決算額		
町	税	19億7,061万円
分 担 金 及 び 負 担 金 な ど		
地 方 交 付 税		57億2,305万円
町 の 借 金		12億8,425万円
県 支 出 金		8億6,128万円
国 庫 支 出 金		8億3,723万円
地 方 譲 与 税		1億8,691万円
県 税 交 付 金 な ど		2億5,506万円
合 計		119億4,424万円

○町税：町民税など ○分担金、使用料外：保育料、住宅使用料など  
○地方交付税：標準的な町の財政規模を定め、不足するお金が国から交付される  
○国庫支出金：特定の事業のために国から交付されるもの  
○県支出金：特定の事業のために県から交付されるもの  
○地方譲与税：国税の一部が交付されるもの ○県税交付金外：県税の一部が交付されるものなど

# 平成25年度決算に 反対 賛成

## 反対 矢山 武

高齢者が安心して老後を送れるような医療介護への対応が求められる。自治センターなどの施設の整備費が今後も必要である上、その後も維持管理費が必要となり、もつと節約を図るべきである。

今後、人口減少、地方交付税の減額、町税の減少などの現状のもとで、安定的財政運営を町政に求める。

公共下水道の整備は、町の負担をどのようにすべきか検討すべきであり、今後、使用料、加入率が非常に重要な課題で計画を再検討すべきであることを求めて反対の討論とする。

## 賛成 田谷 幸奏

監査委員の「決算数値はいずれも符合し正確である上、指定金融機関における現在額と一致している。」との決算審査結

果の意見があり、正確な事務処理が行われたことが伺われる。一方、町の財政状況は、財政力指数、将来負担比率、財政調整基金残高、町債残高など経常収支比率の微増を除きいずれも好転している。

町長の「中山間8策」に掲げられ予算化されたものには、「住宅リフォーム補助事業」、「浄化槽維持管理費補助事業」など町民に歓迎された事業もあることを述べ賛成の討論とする。

## 反対 福田 豪

合併記念式典の開催、今年度末の尾道松江線的全線開通などがあり、虹色のムードが沸き起こっているが、ほかに大切にしないといけない要素もある。

今年度決算は、通常時の決算に比べ持ち合わせの意味が若干異なる。大きな課題がある。

現在の新町建設計画は

思うに任せず、十分な成果が上げられないまま、いまだに未着手のものを残して10年が経過している。

決算審査の際、概要書では比較的肯定的な概要ばかりで、決算から見える課題等は示されていないことを指摘して反対の討論とする。

## 賛成 福田 義人

下水道は、町にとって重要なライフラインである。町づくりでは、雇用を守るための企業の誘致、町内起業家の育成などに、下水道は非常に必要な施設である。また、経済振興のためにも必要な施設である。

簡易水道、上下水道、農業排水など、ほとんどの料金収入が各会計歳入の50%を割っており、町からの支弁がないと運営できない状況にあることを述べ賛成の討論とする。

## 審査付帯意見

- 1、平成27年度以降においては、段階的に合併算定替えによる交付税の増額分は縮減される。合併10周年を迎え、新町建設計画をはじめとする各種計画を含め、歳入歳出において、確実な財源の確保を図るとともに交付税の減少に耐えられる財政運営に努められたい。
- 2、公営企業の事業執行に当たっては、事業の収益性に考慮するとともに、公共の福祉を増進するように努められたい。
- 3、決算審査の過程において指摘した事項については、十分留意し今後の行政執行に反映されたい。





# 視察研修報告

## 総務文教委員会

### 調査事項

ふるさと納税(寄付金)及び地域産品のプレゼントによる地域振興について

平成26年7月28・29日の2日間、標記調査項目について、鳥取県境港市と北栄町を視察した。2か所とも平成20年度から実施され、現在取り組み当初の数倍以上の寄付金額に増加している。その取り組みの特徴は次のとおりである。

### 境港市

●1万円以上で5千円相当の特産品、3万円以上で2品目を贈呈している。

●特産品は、毎年2月、市内業者が販売するものから選出する。

●「プレゼントの選定」

●ふるさと境港市を懐かしんでもらえるもの

●境港のPRになるもの

●境港市に本店、営業所がある業者

〔境港市の特徴〕

●テレビ、雑誌の取材には、積極的に対応

●寄付者の特徴(アンケートで情報収集)

●リピーターが6割以上を占め、地域順は、関東、関西、東海順に多く、年齢層は、40歳代、50歳代、30歳代の順に多い。

### 北栄町

●「プレゼントの選定」

●商工会、農業関係担当課が業者を訪問して周知・依頼する。

●金額を5千円程度(送料は業者負担)とし、業者の提案品を選定する。

●「北栄町の特徴」

●要望特産品の順位

●ピオーネ、スイカ、米、ハムの順に多い。

●プレゼントの50%は、J Aが取り扱う。

●「取組みの共通点」

●クレジットカード決済を導入し、寄附の入金をしやすくした。

●プレゼント品は、地

域の特産品30品目以上から選べる。

●インターネット上の「ふるさとチョイス」

「ふたぐす」、「わが町ふるさと納税」に情報提供している。

●特産品によっては、数と期間の限定がある。

## 産業建設委員会

平成26年7月22・23日の2日間、それぞれの調査項目について、岡山県真庭市と西栗倉村を視察した。

### 真庭市

●調査事項

●バイオマスタウン構想について(同市観光連盟が主催するツアーに参加し、バイオマス

事業の取組みを視察)

① 木くずをペレット

にし、空調・温水プール・ストーブ・ビニール

ハウスの暖房に使用。

●木質バイオマス発電

は、工場のエネルギーとして使用している。

② 市役所本庁舎には

取組みのポイント

●魅力的なプレゼントを確保する。

●寄付者への速やかな対応が必要である。

●ネット通販と同じ感覚で、早く寄付者の手元に届ける。

●クレームには、速やかな対応をする。

●太陽光発電を設置し、冷暖房はバイオマスボイラーにより賄っている。

③ そのほかに、廃食用油はディーゼル燃料に、おがくずはキノコ生産・バイオマス堆肥として農地・牧草地の土作りに役立てている。

④ 戦後植林された人工林が60%で、地元産の有効活用を図り、廃材やおがくずの利用も進められている。

●西栗倉村

●調査事項

●森林を活かした施策「100年の森構想」

●森林を

●活用

●している

① について

●戦後植林された山林が多く、「100年の森構想」事業

で、間伐作業、作業道の整備、間伐材

の販売に取り組み、収入も年収1千万

円程度あり、雇用も70人程度ある。

② 木材加工に15人が雇用されている。

●民有林の施業は、個人負担分を村で負担しているが、10年間伐採できないことから、参加しない人もいる。

③ 間伐端材などを温泉ボイラーに使用している。発電などへの利用も検討されている。

●西栗倉村

●調査事項

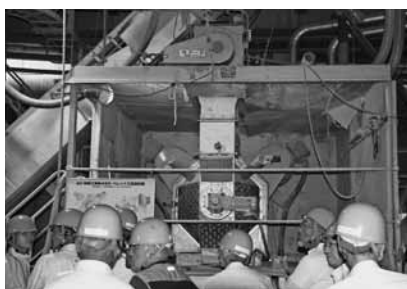
●森林を活かした施策「100年の森構想」

●森林を

●活用

●している

●活用



# 報告します。

## 委員会は今

### 総務文教常任委員会

### ふるさと納税の推進

### 現地調査

○大田庄歴史館

開館 平成7年度

運営方針

・学ぶ場の提供

・調査研究の反映

・若い世代への文化継承

○児童発達支援事業所

「すずらん」

「事業所の概要」

事業主 (株)のとテック

開所時間 午前10時から

午後3時まで

通所児童 定員10人

(延べ19人)

療育支援内容

・個別学習・集団学習



児童発達支援事業所「すずらん」

### 調査事項

○ふるさと納税

〔年度別実績〕

H23 15件 2038千円

H24 23件 1956千円

H25 36件 2674千円

〔今年度実績(8月末)〕

申込件数40件(昨年11件)

入金件数22件(同 10件)

収納金額 667千円

(同565千円)

〔今年度の対応策〕

選べる特産品カタログ

・身辺自立の学習

・保護者への支援

本年度の課題

・人材育成と療育内容の更なる向上

・組織構築と組織的運営

・危機管理の推進 災害

時避難への対応

グの導入を図る。

・産業振興策にも貢献

・体制作りが喫緊の課題

○町ホームページの更新

〔課題〕

・視覚に訴える情報を発信する方法

・研修などで、システムに直接携われる能力向上

・前回の事務調査からの課題も多く残っている

るので、今後も引き続き改善を図る必要がある。

○介護保険事業の運営

①要支援1・2の今後

・現行の訪問介護等に相当する単価・利用者負担を設定

・利用者負担は、サービス内容・時間、基準等を踏まえて設定

②地域支援事業の上限

総合事業に移行する

サービスに要する費用がまかなえるよう従来の費用実績を勘案した上限を設定する。

受け皿としては、従来の事業所単位に加え、地域のサロンなども対象になる。

○国民健康保険の状況

事務一本化への取り組み

・県が単一の保険者

・保険料は県内統一

・一定の期間、激変緩和措置を設定

・国による十分な財政措置を設ける。

・市町は、「被保険者に関わる事務」を担当する。

・市町の創意工夫が住民の福祉向上に反映される仕組みを構築する。

○全国学力・学習状況調査結果(4月22日)

小学校6年生

国語 A・B ※1

算数 A・B

中学校3年生

国語 A・B

数学 A・B

すべてが全国平均を上回っている。

○「基礎・基本」定着状況調査結果(6月10日)

小学校5年生

国語 算数 理科 ※2

中学校2年生

国語 数学 理科

英語

小学校は、すべてが県平均を上回っており、中学校は、英語(タイプI)を除き、県平均を上回っている。

※1 全国学力・学習状況調査 「A 知識・技能に関する問題」「B 知識・技能の活用に関する問題」  
 ※2 「基礎・基本」定着状況調査 「タイプI 基礎的な知識・技能に係る内容」「タイプII 基礎的な知識・技能を実生活や学習の様々な場面に活用する力に係る内容」



インフォメーションセンター(仮称)造成地

## 産業建設常任委員会

# 集中豪雨の被害状況と対応策

## 現地調査

- インフォメーションセンター(仮称)工事進捗状況
- 尾道松江線世羅ICの工事進捗状況
- 請願・陳情案件の現状(町道西川2号線改良工事)

○集中豪雨(8月発生)による町内の被害状況と対応  
農業災害は35か所で約3千万円、公共土木は30か所で約5800万円の被害が発生した。

いずれも年度内の復旧を目指して工事を実施する。

○住宅リフォーム補助制度  
平成25年度の補助は、54件、1200万円で、総事業費は、1億7千万円で経済効果はあった。今後は減少する可能性がある。

○西世羅簡易水道の利用状況と今後の課題  
加入件数441件、加入率は約84%で、1日最大配水量591トン、平均配水量130トンである。

給水区域の変更は、農林水産省の認可が必要であり、困難である。

○農地中間管理機構

6月の自治センター事

務局会議で説明、パンフレットの配布、広報紙への掲載などで周知を図っている。第1回の申込みでは、借り受け希望100haに対し、貸し出しは10haであった。今後、9・11月にも募集を予定している。

地域集積協力は、作付の転換として飼料用米などの水田の活用を検討している。

○地場産業の育成と地域振興対策  
商工業振興策として、人材育成支援事業で後継者育成・雇用を支援し、新規創業支援事業で創業や別の分野への進出を支援している。企業融資には1.5%、公庫の貸付には1%の利子補給を行っている。

そのほかにも地場産業育成のための支援策がある。

## 議会改革調査特別委員会

# 議会基本条例小委員会報告

## 調査事項

「議会基本条例」制定に向けた取り組み状況

1 小委員会の設置

3月12日開会の議会改革調査特別委員会で、同委員会内に議会基本条例を検討する小委員会を設置することになった。

小委員会は、委員5人で構成し、第1回委員会を4月30日開会した後、現在までに6回開会して、条例制定に向けて鋭意作業を続行している。

2 作業の内容

他市町の条例の内容検討・神石高原町における条例制定までの取り組み状況調査などの事前準備を実施した後、当町の議会基本条例の作成作業に取りかかった。

3 条例の内容

条例には、「目的」、「議会と議員の活動原則」、「町民と議会との関係」、「町長と議会との関係」、「議員の政治倫理」などあらゆる角度から議会のあり方について、条文に盛り込むことにした。

その後、世羅町議会に関する条例、規則、申し合わせなどの整合性を確認し、現在までに前文を除き、ほぼ条文草案の作成が終了した。

4 今後の予定

議会基本条例の理念等条例制定の基本となる「前文」を検討・作成した後、議会改革調査特別委員会を開会して、委員全員で細部にわたり検討する予定である。

なお、政務活動費の取り扱いについては、住民の意見を聞くなど、今後も引き続き検討する。



## 請願陳情等を審査しました

9月定例会において3件の請願陳情審査を行い、採択2件となりました。

番号	件名	請願・陳情者	委員会の意見	審査結果
14	ゴミ収集委託 再調査審議及び公正なる行政運営の執行の要望書	せら改革の会 総括責任者 實 久 誠	これまでの定例会において、十分議論し、実情も調査して実態把握をしている。町では、積算の内容を精査し、委託料の見直しを考慮するなど十分な指導を考えている。一般廃棄物収集業務は、他の事業と同様競争入札では、住民の安全・安心を担保する面で心配がある。	不採択
15	障害者福祉の充実を求める請願書	社会福祉法人みつば会家族会 会長 福 岡 啓 一 紹介議員 下 原 嘉 雄	社会福祉法人みつば会が介護事業所を開設・運営する際、行政が直接関わることは難しいので、この項については不採択とし、その他の項については、採択とした。	一部採択
16	町道西川2号線改良工事について	西川振興会 会長 石 原 正 俊 ほか5人	今後過疎計画により計画的に進める必要がある。	採 択

## 人 事

固定資産評価審査委員会  
委員の選任に同意した

田坂 誠氏  
世羅町大字宇津戸

教育委員会  
委員の任命に同意した

廣山 一子氏  
世羅町大字徳市

人権擁護委員  
委員の推薦諮問を適任とした

落合 脩氏  
世羅町大字西上原

人権擁護委員  
委員の推薦諮問を適任とした

瀬尾 紀枝氏  
世羅町大字本郷



# 提出議案等の採決結果

## 第3回定例会(平成26年9月)

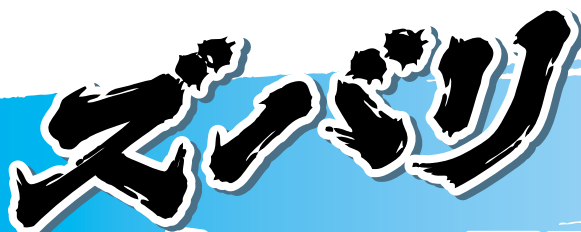
(賛否の分かれたもの)

○ 賛成 ● 反対 空白 退席

議案番号	提出議案	採決	田谷	盛谷	岡田	米重	仲行	矢山	福田義	福田豪	下原	新原	生田	徳光	仙光
議案第62号	いじめ問題調査委員会設置条例の制定について	可決	○	○	○	○	○	●	○	○	○	○	○	○	○
議案第63号	特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準を定める条例の制定について	可決	○	○	○	○	○	●	○	●	○	○	○	○	○
議案第64号	世羅町家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例の制定について	可決	○	○	○	○	○	●	○	●	○	○	○	○	○
議案第65号	世羅町放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準を定める条例の制定について	可決	○	○	○	○	○	●	○	○	○	○	○	○	○
議案第68号	甲世衛生組合理約の変更について	可決	○	○	○	○	○	●	○	○	○	○	○	○	○
議案第69号	平成25年度世羅町一般会計歳入歳出決算認定について	認定	○	○	○	○	○	●	○	●	○	○	○	○	○
議案第70号	平成25年度世羅町国民健康保険事業特別会計歳入歳出決算認定について	認定	○	○	●	○	○	●	○		○	○	○	○	○
議案第71号	平成25年度世羅町後期高齢者医療制度特別会計歳入歳出決算認定について	認定	○	○	○	○	○	●	○		○	○	○	○	○
議案第72号	平成25年度世羅町介護保険事業特別会計歳入歳出決算認定について	認定	○	○	●	○	○	●	○		○	○	○	○	○
議案第73号	平成25年度世羅町介護サービス事業特別会計歳入歳出決算認定について	認定	○	○	●	○	○	○	○		○	○	○	○	○
議案第74号	平成25年度世羅町農業集落排水事業特別会計歳入歳出決算認定について	認定	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○
議案第75号	平成25年度世羅町上水道事業会計決算認定について	認定	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○
議案第76号	平成25年度世羅町簡易水道事業会計決算認定について	認定	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○
議案第77号	平成25年度世羅町公共下水道事業会計決算認定について	認定	○	○	○	○	○	●	○		○	○	○	○	○
陳情第14号	ゴミ収集委託 再調査審議及び公正なる行政運営の執行の要望書	不採択	●	●	●	●	○	●	●	●	●	●	○	●	●
請願第15号	障害者福祉の充実を求める請願書項目2	不採択	●	●	●	●	●	○	●	●	○	●	●	●	●

(全員一致で決定したもの)

議案番号	提出議案	採決	議案番号	提出議案	採決
議案第61号	自治センター設置及び管理に関する条例等の一部を改正する条例	可決	議案第83号	農業集落排水事業特別会計補正予算(第1号)	可決
議案第66号	ひとり親家庭等医療費支給条例の一部を改正する条例	可決	議案第84号	上水道事業会計補正予算(第1号)	可決
議案第67号	都市公園設置及び管理に関する条例の制定について	可決	議案第85号	簡易水道事業会計補正予算(第2号)	可決
議案第78号	一般会計補正予算(第3号)	可決	議案第86号	公共下水道事業会計補正予算(第2号)	可決
議案第79号	国民健康保険事業特別会計補正予算(第1号)	可決	議案第87号	応援寄附基金条例の制定について	可決
議案第80号	後期高齢者医療制度特別会計補正予算(第1号)	可決	議案第88号	一般会計補正予算(第4号)	可決
議案第81号	介護保険事業特別会計補正予算(第2号)	可決	請願第15号	障害者福祉の充実を求める請願書項目1・項目3・項目4・項目5	採択
議案第82号	介護サービス事業特別会計補正予算(第1号)	可決	陳情第16号	町道西川2号線改良工事について	採択



一般  
質問

# 町政の課題

ただ  
13議員29問を質す

ページ	質問者	質問事項
11	福田 豪 議員	1 情報管理のあり方 2 農業をめぐる展望
12	仙光 保喜 議員	1 豪雨災害状況と対応
13	新原 浩 議員	1 人材育成の実現に向けての取り組みは 2 自然災害について町としての取り組みは
14	下原 嘉雄 議員	1 人口高齢化の町の取り組み政策は 2 サテライトオフィスの推進は 3 町の再生可能エネルギーの取り組みは
15	盛谷 光明 議員	1 大雨災害対策について 2 地域包括ケアについて 3 鳥獣被害対策について
16	徳光 義昭 議員	1 道の駅「世羅」に 天地花作品の設置を問う 2 中国女子世羅駅伝競走大会「仮称」の開催を問う
17	生田 智康 議員	1 安全・安心な世羅町の確保は出来ているか 2 大妻女子大とのパイプをより太く
18	仲行 洋 議員	1 財政、本当に大丈夫？
19	岡田 武士 議員	1 甲山廿日えびすの継承について 2 学校においてがん(癌)教育を取り入れたら
20	田谷 幸奏 議員	1 魅力ある町づくりについて 2 郷土の文化・芸能に関する教育の実情について 3 災害に強いまちづくりについて
21	米重 典子 議員	1 教育委員会改革、世羅町の動向は 2 子ども・子育て支援新制度とこれからの世羅町の子育て支援は
22	福田 義人 議員	1 積極的に「ふるさと納税」の推進でまちの活性化を 2 イノシシ・鹿の食害から地域を守るパトロール隊の設置を 3 道の駅建設と今後の活用について
23	矢山 武 議員	1 米価の値下がりと不作で今後の農村は 2 教育委員会改革による今後の教育、いじめへの取り組みは 3 社会保障解体が進む中で、今後の医療はどうか



## 情報管理のあり方



福田 豪 議員

**答**  
保護管理者のもとで  
管理運用を行う

**Q** 福田(豪)

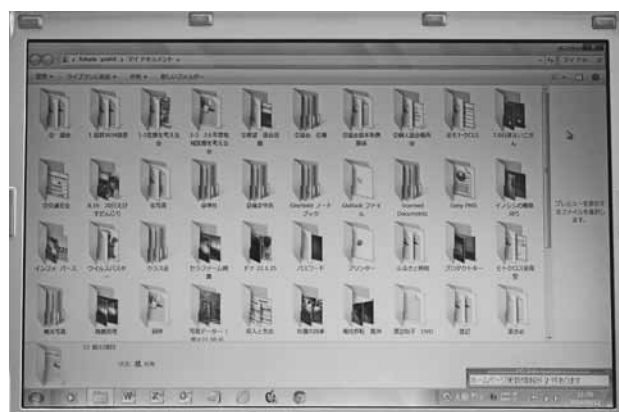
役場に蓄積される情報には個人情報に関するものが少なくない。これらの管理、運用はどのように行われているのか。また職員が知り得た情報は、どういった場合に第三者に公言できるのか。

**A** 町長

管理及び利用は担当課長を責任者に定め、業務目的を達成するために必要な範囲で利用している。

パソコンを用いて作成されたデータは、所定の場所に保管するとともに、複写または持ち出しには保護管理者の承認を必要としている。また他の部署のデータ利用についても、それぞれの保護管理者の承認を必要としている。

職員の第三者への公言は、本人の同意のほか、生命財産に対する危険回避、法律などで定められている通報義務などの場合を除きありえない。



データ保護は万全か

## 農業をめぐる展望

**答**  
担い手育成と環境整備  
が重要である

**Q** 福田(豪)

8月の長雨・豪雨、米価の大幅下落、補助金の削減など、農業経営、農家経済に大きな打撃が予想され、来年以降にも大きく影響すると思われる。基幹産業である農業をどう展望するのか。

**A** 町長

農業を持続可能なものにしていくためには、担い手の確保と育成に併せ、経営強化のための環境整備がこれまで以上に重要と考える。

担い手の育成は、「人・農地プラン」等により明確化し、農地を累積することが重要と考える。とりわけ集落法人化は、小規模農家を含めた地域農業の再生につながると思う。

次に作付け体系の転換を図り、足腰の強い経営と所得向上につなげていきたい。

最後に、国県の制度や町独自の支援策を活用し、後継者の育成と確保に努める。

また農業者自らが地域農業の将来を考え、目標を定めて取り組むことも大切であり、県やJAなど関係機関との連携を強化していきたい。

# 豪雨災害状況と対応



仙光保喜議員

答

災害復旧は補正予算で対応する

Q  
仙光

8月6日、町は大雨に見舞われた。特に西部が激しい状況にあった。被害報告も200件以上に達した。

今回、美波羅川は決壊しなかったが、警戒水位ははるかに超えた状況であった。その結果、避難準備情報が発令された。

昨今の異常な状況を考慮の上これまで通りの対応でなく二次被害の起こらない対応を町としてすべきで、高齢化が進み一人暮らしや空き家が多い中、地域に配慮した対応が必要である。

A  
町長

今回は午前3時58分に大雨警報、5時13分には洪水警報が発令され、4時過ぎから警戒態勢に入った。午前2時ごろから時間雨量20ミリを超え、更に6時ごろからは世羅西方面に30ミリを超える雨が2時間にわたり降り被害が発生した。

芦田川、美波羅川は氾濫危険水位到達の恐れがあり避難準備情報を発令し町内4箇所を避難場所として対応した。

今後の災害復旧は、農地等100箇所、町道25箇所、河川5箇所であり、補正予算で対応する。自力避難が困難な高齢者や障害者には避難行動要支援者避難支援制度により自主防災組織等の支援を受けられるようにしている。

広島市の大災害を教訓に注意体制、警戒体制を速やかに整備し、避難準備、避難勧告、避難指示を的確に発令し、自主防災組織、警察、消防などと連携して対応する。



まさかの床下浸水が発生



## 職員育成の取り組みは



新原 浩議員

答  
研修会への積極  
的参加を促す

Q  
新原

今日の複雑な社会情勢の変化に柔軟かつ弾力的に対応できる自立した自治体を目指し、職員自ら考え成長していくためにどう取り組むのか。

A  
町長

平成24年度から協働のまちづくりを実現するために、先進的取り組みを実践されている方の講演や現場で活用できるノウハウを学ぶ「地域づくり人材育成塾」を開催し、行政職員も積極的に参加するよう呼びかけている。今年度は職員を対象にした協働のまちづくり研修会を計画するなどして町民視点に基づいた業務が遂行できるよう職員の意識の高揚に努める。



あわや 大災害が……

## 自然災害について町の取り組みは

答

自主防災組織活動への支援を図る

Q  
新原

- 1、避難場所を想定した訓練の実施は。
- 2、緊急避難時の連絡体制は。
- 3、避難場所の看板標識の設置は。
- 4、災害発生時の心得帳について。

A  
町長

- 1、現在37の自主防災組織が避難場所を想定した訓練を実施している。
- 2、緊急避難時は、夜間休日問わず職員・宿直員が本庁・支所へ常駐している。各課の連絡体制図については、早急に固めたい。自治センターへの電話回線システムは今後検討する。
- 3、平成27年度に、地震・土砂・洪水と明記した看板を設置予定。
- 4、災害発生時に効果的に活用できる冊子を検討する。

## 人口高齢化の町の取り組みは



下原 嘉雄 議員

答

きめ細かく実態把握  
に努める

Q 下原

生活面での要望が多い中、老老介護や障害者の親の高齢化に対する対策は。

A 町長

今年度策定の世羅町高齢者福祉計画、第6期介護保険事業計画において、ニーズ調査の分析や関係団体の意見を聞きながら施策を計画していく。障害者世帯へはライフステージに沿った支援体制の構築を図る。地域社会で生活する居住の場としてのグループホームは介護する親の高齢化に伴い必要性が高まってくるものと認識している。



新たなグループホームを望む

## サテライトオフィスの推進を

答

先進事例の調査を行い、  
前向きに検討する

Q 下原

自然に恵まれ家賃も安価、WEB環境が整備済の世羅町は現代の経済活動にふさわしい地域で空き家活用にも最適である。業種を指定し、改修して貸し出すサテライトオフィスの考えは。

A 町長

インターネットは現代社会では必要不可欠な装置、存在である。企業活動においても自らのデスクがなくても仕事ができ、WEB環境があれば自然豊かな中山間地域に移せる。先進事例の調査も行いながら前向きに検討する。

## 町の再生可能エネルギーの取り組み経過は

答

積極的に支援しているが  
調査も必要

Q 下原

「木の駅プロジェクト」の取り組み経過は

A 町長

町では太陽光発電設備に加えて木質バイオマス燃焼機器も補助対象とし、再生可能エネルギーを支援している。

「木の駅プロジェクト」は、全国28か所と増加し地域の経済効果の一翼を担っているが課題もあり、売り先がない、補助金依存、木の出荷不足など厳しい運営状況にある。町でもこの課題をクリアしながら里山整備事業、景観整備事業を活用し間伐材の処理、枯損木の除去などに活用したい。



## 大雨災害対策について



盛谷 光明 議員

**答**  
他の関係補助事業との  
整合性含め検討する

**Q**  
盛谷

8月6日豪雨による農林関係被害に対し、農林業  
振興補助金の充当を考えたかどうか。

**A**  
町長

今回町内合わせて22  
ヶ所の災害を国に申請  
し、78ヶ所の小規模災  
害を町の補助金(費用  
の20%、上限8万円)  
で対応するが、基準外  
で全額個人負担の所も  
多い。今後は他の関係  
補助事業との整合性も  
含め限られた財源内で  
事業展開する。



どうする大雨災害対策は

## 地域包括ケアにつ いて

**答**  
関係機関と連携し、  
人材確保対策に努  
める

**Q**  
盛谷

不足する介護職員の確保に  
どう対応するのか。

**A**  
町長

県では福祉介護人材の育成  
と安定的な確保を目的に各種  
事業を実施している。町独自  
の事業では社会福祉協議会と  
連携し、介護実務者研修会を  
開催、研修終了後町内事業所  
に就職した人には、受講料の  
補助制度を創設している。

## 鳥獣被害対策について

**答**  
今後も被害防止及び被害  
の減少に努める

**Q**  
盛谷

町の現状は、捕獲数は昨年と比べて  
どうか。

**A**  
町長

国の交付金事業として19地区に侵入  
防止柵を設置し、その内10地区に箱罠  
を設置する。町が本年度新たに実施す  
るバッファゾーンの整備については申  
請受付を開始した。その他、狩猟免許  
取得にかかる講習会費用の全額を助成  
している。また、捕獲セミナー等開催  
し集落内における被害防止に取り組む。  
イノシシの捕獲数は昨年とほぼ同数、  
シカは昨年より20頭増加した。狩猟免  
許試験の受験者数は23人。今後も被害  
防止及び被害の減少に努める。



生かせ 杭谷一東作品

**Q**  
徳光

平成25年第3回定例会で道の駅「世羅」に杭谷一東氏の「天地花」作品の設置を提案した、設置について問う。



徳光義昭議員

## 道の駅「世羅」に 天地花作品の設置を

**答**

今後は杭谷一東氏と協議を進める

**A**  
町長

平成26年尾道松江線全線開通後において、この作品はまさに今後のまちづくりのシンボルとなる素晴らしい作品であると考えている。今後は設置に向けて杭谷一東氏と協議を進めたい。

**Q**  
徳光

広島市で開催されていた「中国女子駅伝」は第28回で幕を閉じた。本年第1回定例会で、駅伝の町を標榜している世羅町として、中国実業団駅伝大会に次ぐ中国女子駅伝大会の誘致を提案した。前向きに検討するとの答弁であったが、進捗状況は。

## 中国女子世羅駅伝競走大会(仮称)の開催を問う

**答**

「2015中国女子世羅駅伝競走大会」開催決定

**A**  
教育長

本年9月2日の県陸協理事会で正式に決定された。大会名称は「2015中国女子世羅駅伝競走大会」で、開催日は平成27年2月8日(日)、世羅町防災センターをスタートし西大田地区で折り返し、世羅文化センターの間を2往復する5区間(一般3区間、中学生2区間)21.1kmのコースで、出場チームは県内郡市チームと決定。大会は、女性役員を中心に運営されており、町開催でも女性の方に積極的に協力をお願いしたい。大会の選手、役員、応援に来られる多数の方に世羅をPRしたい。

**A**  
町長

皆さんの協力により開催の運びとなり大変よかった。交通規制については世羅警察署、広島県警の協力が得られた。今後、より多くのチームが参加できる大会となるよう、町もアピールしたい。



## 安全、安心な世羅町の確保は



生田智康議員

答

住民の安心、安全を第一に迅速な対応に努める

Q 生田

広島市では土砂災害により大きな被害が発生したが町の土砂災害対策はどうなっているか。

A 町長

ハード面では今年度防災センターの整備、備蓄品の確保、来年度以降は、防災無線のデジタル化を計画する。

ソフト面では各地域の自主防災組織の避難訓練などの支援、ハザードマップ更新整備を進める。町民の方にも災害危険個所の認識や災害時の避難場所の確認、非常時持ち出し品の用意などをお願いしたい。

Q 生田

熊の出没による町民の安全はどう守るのか。

A 町長

熊の目撃情報があったら世羅署への報告、学校、保育所、幼稚園を所管する各課への連絡、世羅町鳥獣被害対策実施隊長へも連絡し、防災無線による緊急放送をする。熊は広島県では保護動物に指定されているので、捕獲、殺処分はできない。しかし人身被害が生じる可能性の高い里山への定着化を防ぐため、クマレンジャー5人で出沒地区周辺のパトロールや爆竹、花火による追い払いなどを行っている。今後も住民の安心、安全を第一に迅速な対応に努める。

Q 生田

町有地の倒木への対応は。

A 町長

自治センターや旧小学校の整備を機会に不要な樹木を伐採している。台風11号に伴う倒木は、町内171個所で発生し、8月10日早朝から職員及び事業者で除去作業をした。

## 大妻女子大との交流をより深く

答

相互訪問を行いながら交流を深める

Q 生田

当町出身の大妻女子大学創始者の大妻コタカ先生との縁で大学との交流を深めたい。

A 町長

本年6月21日に名誉町民でもある大妻コタカ先生の業績を顕彰する「一生誕百三十周年祭」が盛大に開催された。相互に訪問を行いながら大妻女子大との交流を深めて行きたい。



大妻学園と交流を深めよう

## 財政本当に大丈夫



仲行 洋議員

答

財源不足は基金の活用も  
検討する

Q 仲行

来年度より普通交付税が減額となる。自主財源比率が23%と低く歳入の40%を占める交付税の減額は厳しいものがある。高齢化率も一段と高くなる中、行政サービスを低下させないで町をさらに発展させてゆく財政運営は。

A 町長

普通交付税の減額は、財政面への影響が大きいことから、これまで町民の協力を得ながら行財政改革に取り組み、将来の状況変化に耐える財政基盤づくりに努めてきた。25年度決算では町債残高を136億円に減らし、財政調整基金を36億円に増額することができた。また財政の健全化を示す各指数も改善している。

今後は予算規模の縮減に努めるなど、行財政運営は一層厳しさを増す。しかし、行政サービスの質の維持は最優先の課題と考えており、不足する財源は各種基金の活用も検討する。



町の財政は大丈夫か

## 学校でがん(癌)教育を取り入れては



岡田 武士 議員

答

国民の健康に関する知識として必要不可欠なもの

Q 岡田

義務教育の時代にがん検診の予防の大切さを教えては。

A 教育長

国民の二人に一人がかかる可能性がある」と推測されるがんは重要な課題で知識として必要なもの。現在、がんについては小学校の体育の時間や中学校の保健体育の時間に学習している。今後は国・県の動向を注視する中で考えていく。

A 町長

小・中学生の保護者世代はがんのリスクが上がり始める時期でもあり、子ども

たちが学習した内容を家庭で話し合ってもらえば親世代の健康意識も高まり検診受診率の向上に繋がってくるものと期待している。

## 甲山廿日えびすの継承について

答

町も更に継続発展するよう協力していきたい

Q 岡田

今後とも伝統を続けていくための町としての取り組みは。  
世羅町全体のまつりとして発展させては。



廿日えびすの継承を

A 町長

各だんじり保存会などで構成された実行委員会が主催者として実施され、町もその構成員として取り組んでいる。世羅警察署、三原消防署北部分署、世羅町消防団が協力団体として、又多くの皆様の協力参加によって行われている。

町も同様な思いであり、今後とも更に継続発展していくよう取り組んでいきたい。



## 魅力あるまちづくりを進めるためには



田谷 幸奏 議員

答

町民との協働が必要

Q 田谷

魅力あるまちづくりに行政としてやるべきことは。生活環境の整備には、ボランティアの協力が不可欠であるが、それもやがては限界があり、その対応策は。

A 町長

町民との協働を図るため、平成20年度「世羅町協働のまちづくり指針」を策定し、住民と行政が目的を共有し、ともに行動して地域の維持と活性化を図る取り組みをしている。



自然豊かな世羅台地

生活環境の整備は、高齢化と人口減少によりボランティアでの維持管理活動が困難な地域もあるので、今後は、行政と地域の役割を再度見直すことも必要である。

## 郷土の文化・芸能に関する教育の実情は

答

地域教材集を活用したふるさと学習を推進

Q 田谷

郷土の文化・芸能は、小中学校で習ったことが心に残り、いつまでも思い出になるものであるが、学校での郷土に関する学習の実情は。

A 町長

社会科や総合学習の時間に、郷土の歴史や文化、郷土料理や特産品などの食文化、仏像や祭りなどの文化財などを学習している。

なお、学校間の交流は、せら教育の日に「輝くせらの学校文化発表会」を開催

し、各学校で文化活動を発表し交流を図っている。

## 町内に設置の砂防ダムの数及び維持管理状況は

答

県が定期的に現状把握を

Q 田谷

先般、町内に設置の砂防ダムの堰堤下部の流水口から濁流が流出し、人家に被害が生じた事例があったが、町内の砂防ダムの設置数及び管理状況は。

A 町長

町内には、県が設置したコンクリート重力式砂防堰堤が16基設置しており、耐用年数は50年程度である。その間、職員及び外部委託により5年サイクルで点検をし、損傷度に応じて補修を行うなどして延命を図っている。

今後、砂防ダムの設置が必要な箇所については、住民の意見を聞き、県へ要望する。

## 教育委員会改革、世羅町の動向は



米重 典子 議員

答

改正法を遵守し、  
教育行政を進める

Q 米重

平成27年4月に改正地方教育行政法が施行され教育委員会制度が見直されるが、どのような内容か、また世羅町の動向は。

A 教育長

改革のポイントは大きく4点。  
① 教育委員長と教育長を一本化した新教育長を置き、責任者を明確化する。  
② 教育長へのチェック機能を強化し、開かれた教育行政を推進するために会議の透明化を図る。  
③ 町長、教育長、教育委員を構成員とする「総合教育会議」を設置し、教育

行政の方向性を共有し、一致して執行にあたる。

④ 町長は、教育の目標や基本的な方針を総合教育会議で協議し、「大綱」として策定する。

今後の動向としては、新制度においても教育行政の継続性・安定性を確保し、改正法を遵守し進める。

## 子ども・子育て支援新制度と世羅町の子育て支援は

答

利用ニーズを把握し、支援事業計画に反映する

Q 米重

アンケート調査によるニーズはどのように事業計画に反映されるのか。

A 町長

3歳未満児の保育利用ニーズ見込みは高く、子育て支援サービスについては、子育てサークルなど保護者同士の交流の

場の充実を望む割合が高い。要望の高い事業については必要量を確保する方策を明らかにし、平成27年度からの事業計画に反映していく。

Q 米重

こうざん保育所の認定こども園への移行の進捗状況は。

A 町長

事業者選定委員会の厳正な審査により、学校法人恵泉学園を設置運営事業者に決定した。平成28年の開園に向け、適宜指導する。



今後の教育行政の行方は

## 「ふるさと納税」の推進 でまちの活性化を



福田 義人 議員

答

納税手続きなどの  
見直しを

Q 福田(義)

新たな財源の発掘と、町の産業振興をかねた取り組みとして「ふるさと納税」制度がある。全国的に効果を上げているが、町の取り組みの現状と、今後の方向は。

A 町長

「ふるさと納税」制度は自治体の新たな財源確保と、地元産品のPR手段として定着した。納税者に記念品を届けることにより



ふるさと納税で産業育成を

地元産業の活性化や生産者の活力につなげたい。今年度は納税手続きを見直し、寄付された方々が選ぶ特産品の品ぞろえをした。今後は増加件数に対応した体制、情報発信に努める。

## イノシシパトロール隊の設置を

答 導入を検討する

Q 福田(義)

これまでのメッシュ柵による鳥獣被害防止対策では、イノシシは柵を掘り壊す、鹿は飛び越えるなど効果が少ない。  
武雄市で個体減少の効果を上げている「イノシシパトロール隊」を導入するよう提案する。

A 町長

指摘のように被害防止効果が薄れたので、専門家の指導により改善している。パトロール隊の導入は、町での雇用や、地域や集落の中で組織を編成すること

を含め検討する。狩猟免許の取得や箱罠の購入助成も継続する。

## 道の駅建設と今後の活用は

答 平成27年4月下旬オープン予定

Q 福田(義)

国道432号沿いに建設される「道の駅世羅」の  
1、オープン予定は  
2、テナント状況は  
3、インフォメーション機能は

A 町長

1、工事完成は平成27年3月末で、4月下旬オープン予定。  
2、テナントは世羅のPR館として機能を果たすよう観光協会において準備中。  
3、道路情報、町内・沿線観光など観光協会職員が情報提供。併せて町内観光、イベントをテレビモニターに投影するなど魅力の発信に努める。



## 米価が下がる中、農村を どう守るか



矢山 武議員

答

認定農家、法人を  
支援し飼料作物を

Q  
矢山

TPP交渉が加速する中、農協・農業委員会の解体を進め、企業への農地取得を進める農政改革を許さない事が農村を守る。

長雨被害と米価値下がりですらに厳しい。町で田直し事業や道直し事業地域での介護を、そして木材の活用はどうか。



米価下落 個人農家をどう守る

A  
町長

農政改革は慎重な議論が必要で、60 kg一万円を割り込む米価と言われている。収量減、品質低下が心配されるが、「人・農地プラン」の作成で後継者育成を支援し、飼料米などへの転換を推進する。また、林業活用策は県産材の利用拡大を図る。

## 教育委員会改革で教育 といじめは

答

首長との連携と責任体制の明確化を

Q  
矢山

首長が教育大綱を定め、教育長を任免するように、教育の自主性が弱まり、学力テストなどさらに競争が強化される。

保護者、子ども、教職員、住民の不満や要求をつかみ、いじめへの取り組みや改善を図るべきではないか。

A  
教育長

教育委員会制度改正は、責任体制の明確化や首長との連携強化を図る改正であり、

全国学力テストの結果公表は町としては考えていない。

いじめへの取り組みはいじめ防止基本方針を策定し基本的方向を示した。

## 国保の広域化と今後の医療は

答

国に対して十分な財政支援を要請する

Q  
矢山

年金の引き下げや、医療でも前期高齢者の二割負担などが進んでいる。

国保の広域化により県単位で保険料の引き上げと医療の抑制が図られる。必要な医療が受けられる取り組みは、また地域包括ケアをどう進めるか。

A  
町長

県内同一保険料に同意し、国による十分な財政支援措置を要請した。

今後の国保の在り方については、安心して医療が受けられるよう努める。

地域包括ケアシステムは、第6期介護保険事業計画で行動計画を策定する。

# 元気な人紹介

No.24

## 絵に込めた 相手を大切に する心を伝えたい

世羅町安田 石原 詠子さん

「小学生の頃は悪い子でした」と言われる石原さん。

お聞きすると、授業中にノートの端に絵や漫画を描いていたとのこと。小学校4年生の時、投稿した雑誌に絵が掲載され将来は漫画家になると夢を膨らませた。

中学生の時、そのためには美術系大学に行き、基礎学力を高める必要があるとアドバイスされた。それまで勉強には縁のない生活、夜も昼も勉強し普通科に入学した。

高校生の時、窓の外を見ると霜柱の立つグラウンドで陸上部員が腕立伏せをしている姿に、自分も負けまいと刺激を受け発奮、志望校の美術大学に入学した。

その後河合塾の名古屋美術研究所に勤務し、活き活きとした日本の美術界の流れなどを経験しながら3年間を過ごし、教員となった。

高校時代は油彩、その後棟方志功に刺激され日本画を学んだが、10年たつてこのままでは生徒に指導が難しいと、水彩画を学んだ。

一つ一つは上手く書けても、美術展に入選しないのはなぜと、構図を学びその後新制作展に6回入選を重ねるなどの結

果を出された。

先日、大見地区敬老会で司会をされ、出場者の歌や、日本舞踊、ジャズダンスに銭太鼓で元気をもらった。そんなエネルギーを絵に入れた。

絵の心は「一人ひとりの素晴らしさを伝えあなたが大事ですよ」というメッセージが伝わればと。

現在、世羅中学校西門前にかねてからの夢であったサンサンギャラリーを開設し絵を常設展示されている。絵に込めた思いを感じていただきたいと話された。

(福田 義人)



## 表紙紹介



江戸時代から続く当地最大の夏祭り「甲山廿日えびす」が8月19日から20日の間、甲山と栄町商店街1.2kmで開催された。表紙の阿波踊りは、芦田川沿いのステージで踊る女踊りと男踊りのワンシーン。踊り人は、世羅町に活動拠点を置く、県内唯一の阿波踊り連の「廣島紅葉連」。夏の夜に紅葉の浴衣が舞った。

## 編集後記

甲山廿日えびすが8月19・20日と天気も良く無事に済み、ああ良かったと思ったところが、21日朝のニュースでびっくり、眠気も覚めてしまいました。広島豪雨土砂災害で被害にあわれた方々に心よりお見舞い申し上げますと共に一日も早い復興を願うものです。四年前に川尻地区で土砂災害があり、土石流の恐ろしさを身をもって経験しました。また、今年八月の長雨により農作物の成長が悪く、生産者の皆様のご苦労は大変だと思えます。

平成25年度一般会計は3億9千万円の黒字になりましたが、自主財源比率は23・4%と低く、交付税に依存した財政に変化はありません。町民の皆様に住んでいて良かったと思われる町づくりに努力する必要があると考えます。(岡田 武士)

## 議会広報広聴 調査特別委員会

委員長／下原 嘉雄  
副委員長／福田 義人  
委員／田谷 幸奏・岡田 武士  
米重 典子・新原 浩

## 議会を傍聴してみませんか

次回の定例会は12月です

日程は無線放送でお知らせします。  
またケーブルテレビでも本会議の中継をしています。

議員の寄附は法律で禁止されています。議員に寄附を求めることも禁止されています。  
年賀状など(答礼のための自筆によるものを除く)を出すことも禁止されています。



この広報は、環境にやさしい植物性大豆油インキで印刷しています。